１．教育活動について

質問１－①
　統合に向けて、特に移行期にあたる子どもが環境の変化等に対応できるように配慮していただけることはありますか。

回答
　全体的な合意が得られ統合する場合、今後、鴨島の地域合同で活動や授業ができるようＩＣＴを使った交流を取り入れます。また、対面の交流もさらに実施します。
　教員同士の情報交換も行い、子どもの様子をつかめるようにしていきます。

質問１－②
　統合すれば環境が大きく変わる、生徒の心のケアはどうするのか。

回答
　全体的な合意が得られ統合する場合、再編前後における生徒へのスクールカウンセラーによる相談や生徒が統合後の学校生活を円滑に遅れるよう統合準備期間中に学校間の事前交流を積極的に進めます。

質問１－③
　統合後、先生が全員変わってしまうのは不安です。先生の配置はどうなりますか。

回答
　全体的な合意が得られ統合する場合、新しい中学校には、鴨島東中学校の生徒さんの実態を把握している教員の配置が必要であると考えています。
　新しい中学校になったときに、全く知らない教員ばかりということにならないように、計画的な人事配置を行うよう県教育委員会へ要望して参ります。

質問１－④
　小規模化のデメリットにある「中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい」という場合、どのような指導体制になるのか。

回答
　５教科の国語、数学、理科、社会、英語に関しては、ほとんどの学校で免許を持つ先生が指導を行っていますが、音楽、美術、保健体育、技術・家庭などに関しては教員定数の関係で専門の免許を持つ先生を配置できない状況が出てきます。その場合、その学校にいる先生の中で対応することになります。

質問１－⑤
　学校規模が１学年１学級になる場合どんなデメリットがあるのか。

回答
　過小規模校における課題については、下記の７点があげられます。これらの課題は、学年２学級以上にならないと解決ができない課題です。
①クラス替えができず、人間関係が固定化しやすい。
②教科の専門教師が配置できず、専門の授業が一部受けられない。
　一全校３学級規模の学校の教員配当数は校長・教頭を含め８名。中学校は９教科。
③体育の授業など同一学年男女別の授業が実施できず、扱う種目に制限が出る。
④体育大会や学年行事など、学級対抗や学級交流が行えない。
⑤部活動の種類が限られる。
⑥学校図書館の蔵書冊数等、施設・設備の充実が限られる。
　→蔵書冊数は学級数による。
⑦教員一人当たりの校務の負担が重くなる。（学校運営）
　→授業づくり学級づくりにかける時間の減少。

質問１－⑥
統合になることのメリットとデメリットが知りたい。

回答

メリット・デメリットと考えられる一部です。

（メリット）

人間関係が活性化する

集団活動の充実により多様な考えに触れられる

部活動の選択肢が増える

教科に応じた教員の配置

他地域の伝統などを知り、交流活動をすることによるふるさと学習の充実

（デメリット）

授業中に意見や発表ができる場が少なくなる

校区が広がることにより通学時間が長くなる

災害時や警報時の引き渡しの時間がかかる

工事中の環境に配慮が必要

質問１－⑦
小規模校や複式指導の良さは何か。

回答

小規模校には、安全・安心な環境の下、「一人一人に目が届き、活躍の場が保障される」よさがあります。複式指導についても担任が他学年の指導にあたる間、自学・自習の力が身に付き、個が生かされる場面が多い等の良さがあります。

質問１－⑧
　小規模化のメリットに「きめ細かな指導が行いやすく、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい」とあるが、これが子どもにとって一番大事であり、学校再編は子どもたちにとって望ましい教育環境にならないのではないか。

回答

　市教委として小規模化のメリットを否定しているわけではありませんが、学校として全体の学級数をある程度は確保していかなければ、小学校の専科教員や中学校の各教科の専門の免許を持った教員の配置が難しくなるという問題点も出てきます。また、小学校では複式学級になること、中学校では単学級（１学年１学級）になることは教育環境の観点から望ましい状況とは言えません。そういった状況にならないように、今のうちから学校を再編するということも視野に検討することが大事だと考えています。

質問１－⑨
　小中一貫教育は考えられないのか。

回答

　中１ギャップ(※)をなくす意味では、小学生にとって非常にメリットがあると思いますが、中学校において単学級（１学年１学級）が回避されないのであれば、教育環境の観点から課題もあると考えています。今後、他市の多様な取組を調査するなど、効果と課題を検証したいと考えています。

※ 中1ギャップとは、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、不登校等の問題行動につながっていく状態をいいます。

※現在、小中一貫校は、東祖谷小中、佐那河内小中、木頭小中といった近隣に中学校が存在しない地域において小中学校の先生方が協力して教育を行っているところです。この場合においても中学校の単学級は解消されないことになります。

質問１－⑩
　部活動の地域移行についての吉野川市の進捗状況はどうなっているか。

回答

①部活動については、国の方針として、地域への移行が進められています。国の方針や県の教育委員会のガイドライン等を踏まえながら、地域のクラブ活動に移行する方向になります。各中学校にある部活動については、生徒たちが各中学校で活動していた経験を生かす意味でも残すことが望ましいと考えています。

　また、新しい部活動については、生徒たちや保護者の意向も踏まえながら検討していきたいと考えています。

②　現在、国から示されている部活動の地域移行についてですが、内容としましては、まずは休日の運動部活動から地域移行していくことを基本とし、目標時期としては、令和７年度末とされています。

　本市における部活動地域移行に向けたスケジュールについてでございますが、令和５年度から令和６年度を部活動地域移行準備期間と位置づけ、一年目である本年度においては、学校関係者やスポーツ協会、教育委員会事務局等で構成されます、「吉野川市中学校部活動の地域移行タスクフォース」を立ち上げ、本市における部活動地域移行の在り方等について議論を開始しております。

　今後も本市の実態に合った持続可能な部活動の形について、子ども、保護者や教員の声にも耳を傾けながら、計画的に議論を重ね、「タスクフォースからの提言」としてとりまとめる予定となっております。

　市教育委員会といたしましては、その提言をふまえ「市部活動地域移行計画」の策定を行ったうえで、地域移行を着実に進めて参ります。

質問１－⑪
　部活動が地域移行するのであれば、学校再編をしなくても良いのではないか。

回答

　現在、国から示されている部活動の地域移行についてですが、内容としましては、まずは休日の部活動から地域移行していくことを基本とし、目標時期としては、令和７年度末とされています。

　本市では、「吉野川市中学校部活動の地域移行タスクフォース」を立ち上げ、本市における部活動地域移行の在り方等について議論を開始しております。
　仮に、国から示されているように休日の部活動を地域移行した場合、平日は学校での部活動、週末は地域での活動となります。したがいまして、平日の学校部活動につきましては、人数が少なければ、選択できる部活動も少ない状態のままとなります。

　学校再編については、教育条件の向上を図る観点から、特に克服を求められる課題として「複式学級の解消」「クラス替えを可能とすること」「免許外指導の解消」「部活動等の充実」等が文科省作成の資料からも例示されており、そういった観点から考えていくことが必要であると思います。